

やすらぎだより

6
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

コラム第132号

「 屋上の活用 」

施設長 植田 誠



5月23日の法人役員会席上、ある方よりご質問を受けた。

「施設屋上の新たな有効活用は？」

新館となり早14年、約1000㎡の広さがある屋上はここ数年フェンスコンクリートの劣化が著しい。極度の風雪に長年耐え続けた結果、当初の予想を上回る破損状態とのこと。ただ補修するだけでなく、この際改めて何か活用できないか。至極当然の声だ。

環境にやさしく経済効果も期待できる‘太陽光発電’メーカーが、近年何社か問い合わせしてきた。

「屋上の活用として、一度ご検討されてみては・・・」

流行りの提案を言葉優しく言いつつも、‘乗り遅れていますよ’と教示されているようにも聞こえる。

結果はいつも同じである。見上げると相当な広さに思える屋上だが、実はそこには室外機や貯水槽、非常用の発電機まで設置してあるため、リターンが期待できるほどの面積はほぼない。

「富士山と一緒に、下からの景観と登って見る風景は大きく異なります」
 応対するS事務員の表情には、そこはかたない冷静さが漂っていた。

隣接地である天理市の市有地で、昨年2月よりメガソーラー施設の建設が始まっている。工事前に九州の大手施工企業関係者が挨拶に来られた。伺うと工期が約2年、何せパネルの枚数が9万枚、ちなみにその広さは東京ドーム9つ分だと言う。ひけらかされる話は、正真正銘の‘メガ’だ。

「ここは紛れもない生活の場です、騒音には細心の注意を」

言うべきことは言った。‘メガの圧力’には屈せずに。しかし、屋上活用の話はしなかった。勿論、規模の問題だけではない。

冒頭の役員会后、皆さんを屋上に案内する。フラットではない幾つかの段差を乗り越え、眼前に広がる光景を目にされると感嘆の声に包まれる。

「如何です？メガソーラーの広さは」

コンクリートの劣化を忘れ、メガをひけらかす自分がそこにいた。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所 | ○介護予防関連事業 |
| 居宅介護支援事業所 | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業 | ○天理市ひとり暮らし |
| 訪問入浴介護事業 | 高齢者世帯等見守り事業 |
| ○短期入所生活介護事業 | ○低所得高齢者等住まい・ |
| ○在宅介護支援センター | 生活支援モデル事業 |
| ○天理市東部地域包括支援センター | |